

事務事業 No./名称	<input type="checkbox"/> サービス部門 <input checked="" type="checkbox"/> 支援部門 総務-12 財政事務				ザイムスコード及び個別事業名	
					476	財政事務
主管課	財政課	関連課	各部各課			
分野名	行財政運営					
目標 (目標値)	21世紀の新しい時代に即した行財政運営の構築					
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考		
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯			
運営資源 状況	決算値	897千円	11,753千円		指標と評価	
	(国・県)	0千円	0千円		指標	
	(負担金等)	0千円	0千円		評価	
	(一般財源)	897千円	11,753千円			
	人員配置数	6.0人	6.0人		◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退	
	人件費	60,360千円	59,974千円		目標値	実績値
	協働の パートナー					
事務事業 運営経費	総事業費	61,257千円	71,727千円	20年度		
	市民1人当 りの経費	347円	406円	21年度		
	対象者1人 当りの経費			22年度		
ベンチマー ク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名			23年度		
				最終年度 (年度)		
創意・工 夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・極めて人員が少ない中で事務執行になっており、財政部門の体制強化を図るには至っていない。今後、「新公会計制度」の導入や「財政の健全化に関する法律」の施行に伴い、事務量はさらに増加する傾向にあるため、体制強化は必要不可欠となっている。 ・経営セクションと財政セクションとの役割分担を確立し、目的・目標・経営理念等の整合を図り、鎌倉市の経営方針、財政運営方針等を共有していくことが必要と考えている。				
	創意・工 夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・増加する事務に対処するため、IT機器の効果的な活用や事務執行の見直しによる効率化や省力化をさらに進め、事務事業の推進が停滞しないように努めた。 ・財務処理がさらに迅速かつ的確に行えるよう、財政規律を定めた「財務事務方針」の見直しを行った。				
	未解決の課 題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・人員面での体制強化が実現できない中で、現在「新公会計制度」の導入や「新財務会計システムの構築」に取り組んでいる。さらに、「財政の健全化に関する法律」に基づく財政指標の公表など、事務量は今後増加する傾向にある。今まで以上に効率的な事務執行が必要であるが、そのためには体制強化は必要不可欠となっている。				
	今後の方針 (対応・改 善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 昨年後半から経済の動きに持ち直しのきざしが見られるものの、今後も急激な回復は望めないため、引き続き非常に厳しい財政運営を強いられる。 このような中、実施計画第2期基本計画の中期実施計画を着実に進めていくためには、財政計画を確立し、財源を効率よく配分していくとともに、将来の負担が過度にならないよう慎重な対応が必要と考えている。				
一次評価(課長評価)			二次評価(部長評価)			
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了						
評価結果	改善の必要性	経済情勢が厳しい中、効率的な財政運営を行うとともに、将来世代の負担にも考慮した財政計画の策定が必要である。		評価結果	改善の必要性	経済情勢が厳しい中、効率的な財政運営や将来世代の負担にも考慮した財政計画の策定が不可欠であるとともに、市民への説明責任を果たすため、情報開示が重要である。
A	有			A	有	
課長名	服部 計利			部名・部長名	総務部・小村 亮一	